

平成6年度 教育課程運営・改善研究討議会

## 小 学 校 総 務

全体テーマ 「新しい学力観に基づく教育課程の運営と改善」

総務テーマ 「特色ある学校の創造を目指した教育課程の評価と改善」

司会：井田 侑子副校長（茅ヶ崎小学校）

### 1. 開会

- ・ 始めの言葉：瀬尾 清寿校長（上郷南小学校） ・ 教育委員会のあいさつ
- ・ 委員長あいさつ：大村 高校長（藤の木小学校）

### 2. 提案

第一提案 「教育課題の全体計画への位置づけと実践」

特色ある学校の創造 秋葉 公志校長（峰小学校）

第二提案 「全体計画具現化への授業改善」

学習指導と評価の工夫改善 芦川 弘校長（末吉小学校）

### 3. パネルディスカッション

テーマ 「特色ある学校の創造を目指した教育課程」

司会 齋藤 隆士校長（子安小学校）

パネラー 三浦 和弘指導主事（指導第一課） 山本 要子校長（白幡小学校）

渡辺 薫校長（上山小学校） 引地 秀之教諭（日野小学校）

### 5. 閉会

・ 終わりの言葉 添田 敬一郎校長（富士見台小学校）

## 第一提案 「教育課題の全体計画への位置づけと実践」

特色ある学校の創造

秋葉 公志校長（峰小学校）

#### 1. 教育課程見直しの必要性

- （１） 社会の変化に主体的に対応できる能力を持った、心豊かな人間の育成をめざす。
- （２） 人権尊重・国際理解・環境・保健・福祉・学校五日制等の課題の解決。

#### 2. 新しい学力観に基づく教育

- （１） 子ども一人一人が自分のよさや可能性を豊にし、高め、新しい時代を生きる力、文化を創っていく力、21世紀を創造する力を獲得していくようにすることが大切。その際中核となって働く資質や能力が、関心・意欲・態度と思考力、判断力、表現力、創造力等である。新たな課題の解決に生きて働くように知識や技能を自ら獲得していくものとして学力を捉えていくことが「新しい学力観に基づく教育」である。
- （２） この考えに基づいて教育を実践することは、学習指導要領がめざしている、豊かな心・個性・創造性を培っていくことになる。

#### 3. 特色ある学校の創造と教育課題

- （１） 特色ある学校とは、以下の から について、児童の発達段階や地域・学校の特性を踏まえ、授業時数との関連において総合的に組織され、学校教育目標達成に向けて実践される教育活動全体を通して結果として表れるもの。

市教育課程改訂の重点である四つの理念をしっかりと捉えること。

心豊かな人間の育成 基礎・基本の重視と個性教育の伸長

自己学習力の育成 文化と伝統の尊重と国際理解の推進

新しい学力観に基づいた教育観・児童観（指導観・学習観）に支えられている。

各学校の教育課題が明らかにされ、その解決策が模索され、実践されている。

- （２） 各学校において全教職員共通理解のもとに教育課題を明らかにし、推進・実践すること。
- （３） 教育課題 教育課題に向かった課題 社会の要請で生まれてくる課題 児童の実態や地域の特性等から学校独自で追求していく課題。これらの課題は、各教科・道徳・特別活動等との関連を図り、それらを超えて教育活動全体で追求・推進する。

#### 4. 教育課題の全体計画の位置づけ

- （１） 新しい学力観に基づく児童一人ひとりの自己実現をめざして教育課程の全体計画を見直す。
- （２） 教育課題と全体計画

各教科・道徳・特別活動等の中で深くかかわりを持たせて実践する。

教育課題を中心に位置づける。

（３）環境教育を課題として取り上げた場合

各教科の学習指導の中で進められる。教科間の連携を図り、関連部分を合科的に扱ったり、連続させて学習活動を構成したりして総合的に把握できるように学校教育全体の中に位置づける。

## 第二提案 「全体計画具現化への授業改善」

### 学習指導と評価の工夫改善 芦川 弘校長（末吉小学校）

#### １．指導計画の見直しと改善

- （１）子ども一人ひとりの興味・関心、経験等と教師の指導意図が一体化できるように指導計画を見直す。
- （２）体験的活動や問題解決的な学習形態を取り入れ、子どもよさと可能性が発揮されるように指導計画を見直し、授業の改善を図る。
- （３）子どもの主体性が発揮されるように教師主導から子どもの側に立つ指導への転換を図る。

#### ２．指導観の見直しと授業の改善

- （１）個に応じ、個性を生かす授業
- （２）体験的な活動を組み入れた授業
- （３）問題解決的な学習を重視する授業

#### ３．指導と評価の一体化

- （１）新しい評価観 子ども一人ひとりのよさと可能性を引き出すことがねらい。
- （２）自己学習力は、「興味・関心・態度」等の行動力によって培われる。
- （３）目標分析の必要性 様々な視点から問題追求できるように教師が目標を分析・把握
- （４）評価方法の工夫

診断的評価 単元についての子どもの興味・関心・既有知識をとらえる。

形成的評価 問題追求の過程における評価で、子どもの目標把握の程度、つまづきの発見、追求方向の確認、子どものよさと可能性の発見などをとらえる。：自己評価、相互評価

総括的評価

## パネルディスカッション テーマ 「特色ある学校の創造を目指した教育課程」

### 渡辺 薫校長（上山小学校）

学校五日制はリストラであると捉える。学校におけるリストラとは、学力の保障をするために授業時数、学校行事の質を高める。授業の改善を。どの子にも共通課題は解決できるように。一人学びも。問題解決ができた子には発展問題を提示するといった工夫を。１０年前の自分の授業と今ではどう変わっているかを教師が自己評価して。少しの工夫で授業が改善される。内容の重なりを見つけたして時間を合理的に使う。

### 山本 要子校長（白幡小学校）

主体的に学校に行く子を育成するために楽しい学校作りをめざしたい。地域・子どもの実態からめざすものを見つけ、これを中心に据える。全体計画は、つながりを明らかにすることにより、どの教科がどうかかわっていくか、学力をつける。大綱小では、行動する国語科ということで、「大倉山」という単元を設定、各学年で取り組んでいる。

### 引地 秀之教諭（日野小学校）

一過性の楽しさから自己実現的な楽しさへと、楽しさを変える。もっとできるようになりたい、もっと上手になりたいへ。子どもができるところから取り組む指導、指導者が、これがどうつながるのか、どういう力をつけるのかという見通しをもって指導する力をつける。

### 三浦 和弘指導主事（指導第一課）

地域の素材や学校が環境として持っていることを素材とすることで子どもに強い印象を与えることができるし、学び方を身につけさせるとともに、人格の形成に影響を与え得る（原風景を育てる）。特色ある学校は作ろうとしてできるものではなく、子どもを見つめる結果としてできるもの。教科・領域がバラバラにならなように授業改善を。そのためにも、授業記録をもとに授業の分析を。教師の発問、叱責、賞賛、繰り返し、子どもの発言と発言の関連から、目標の達成はできたか、目標の把握はよいか、を見る。教材研究では教材の解釈と、子どもの反応の予測をする。